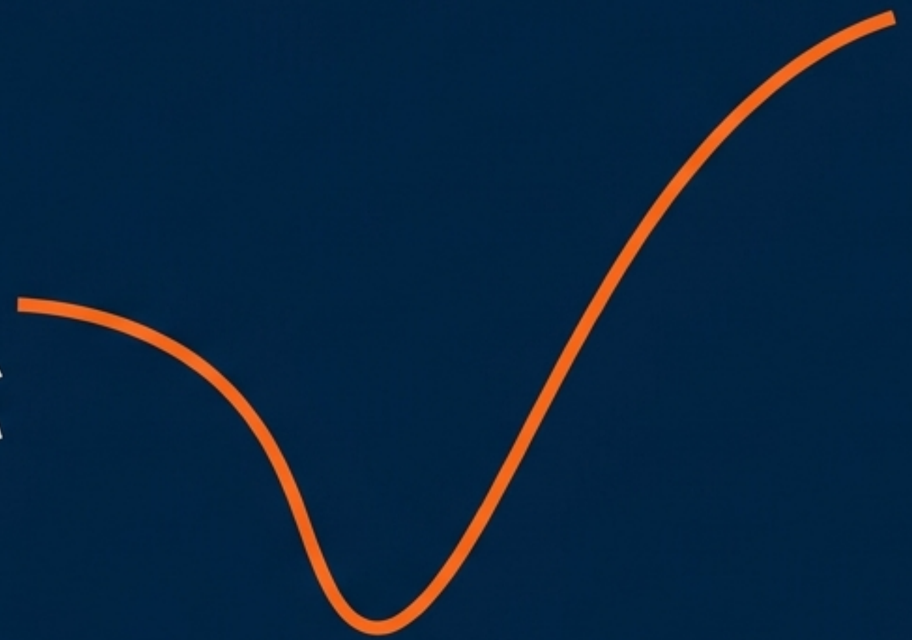
終わらないラリー：建設的な「厳しさ」が育む折れない心

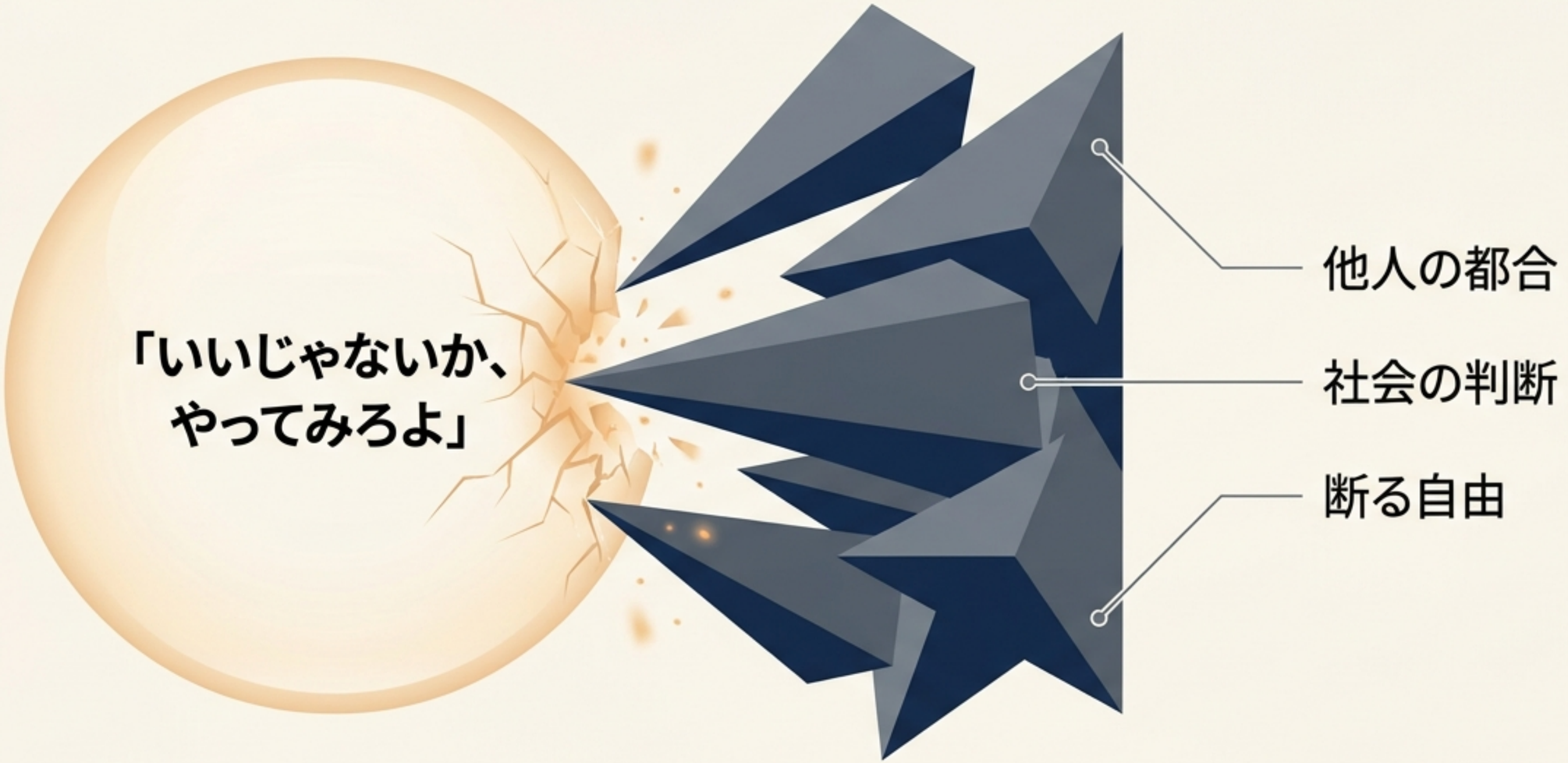


なぜ、全肯定だけでは人は社会を生き抜けないのか。

失敗から立ち直る力を育む、新しい教育のパラダイムシフト

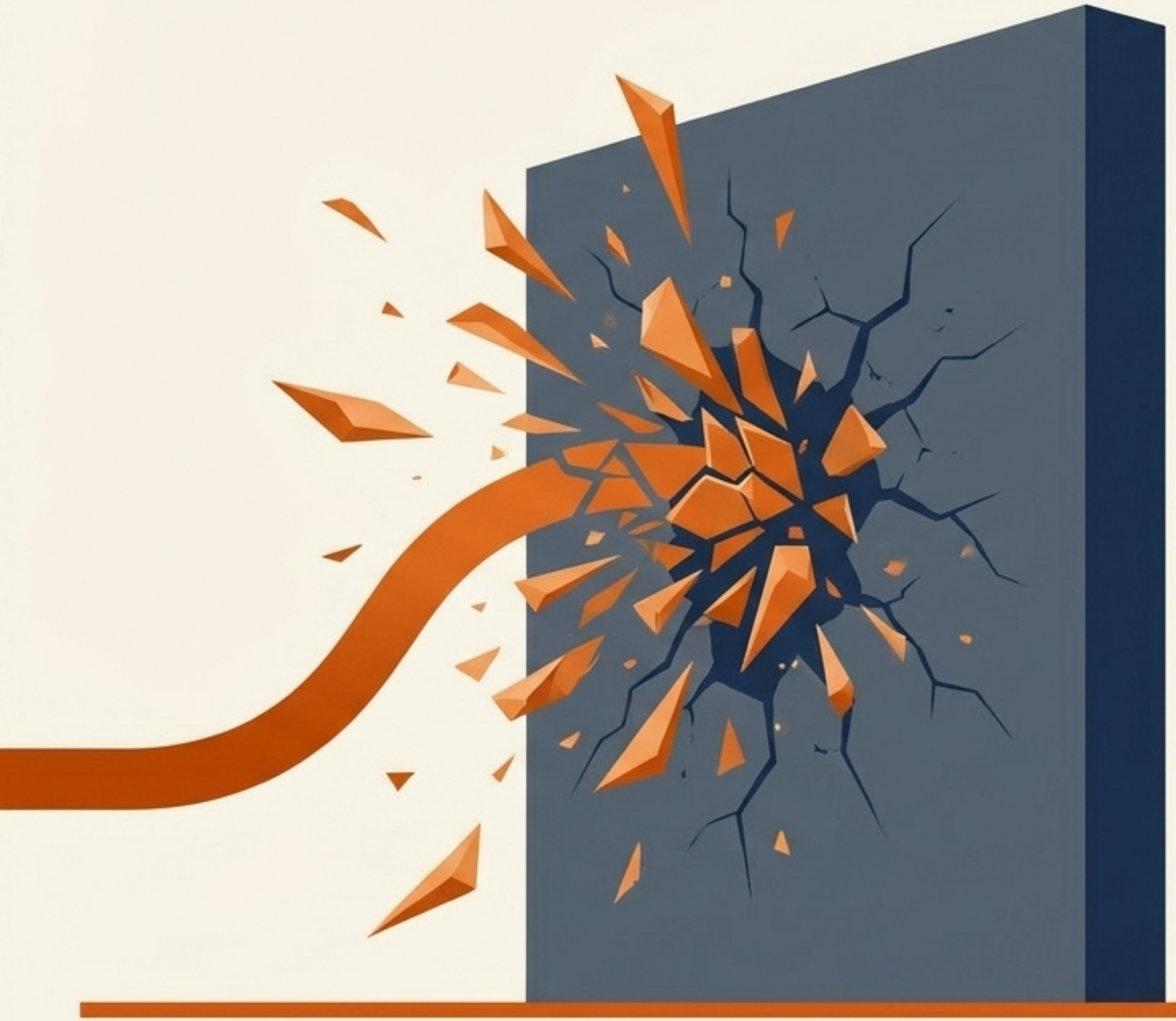
Gemini Notebook

全肯定の錯覚



「認めてもらえるはず」という前提で社会に出ると、提案への反対を「自分自身への拒絶」として受け止めてしまう。

Gemini Notebook

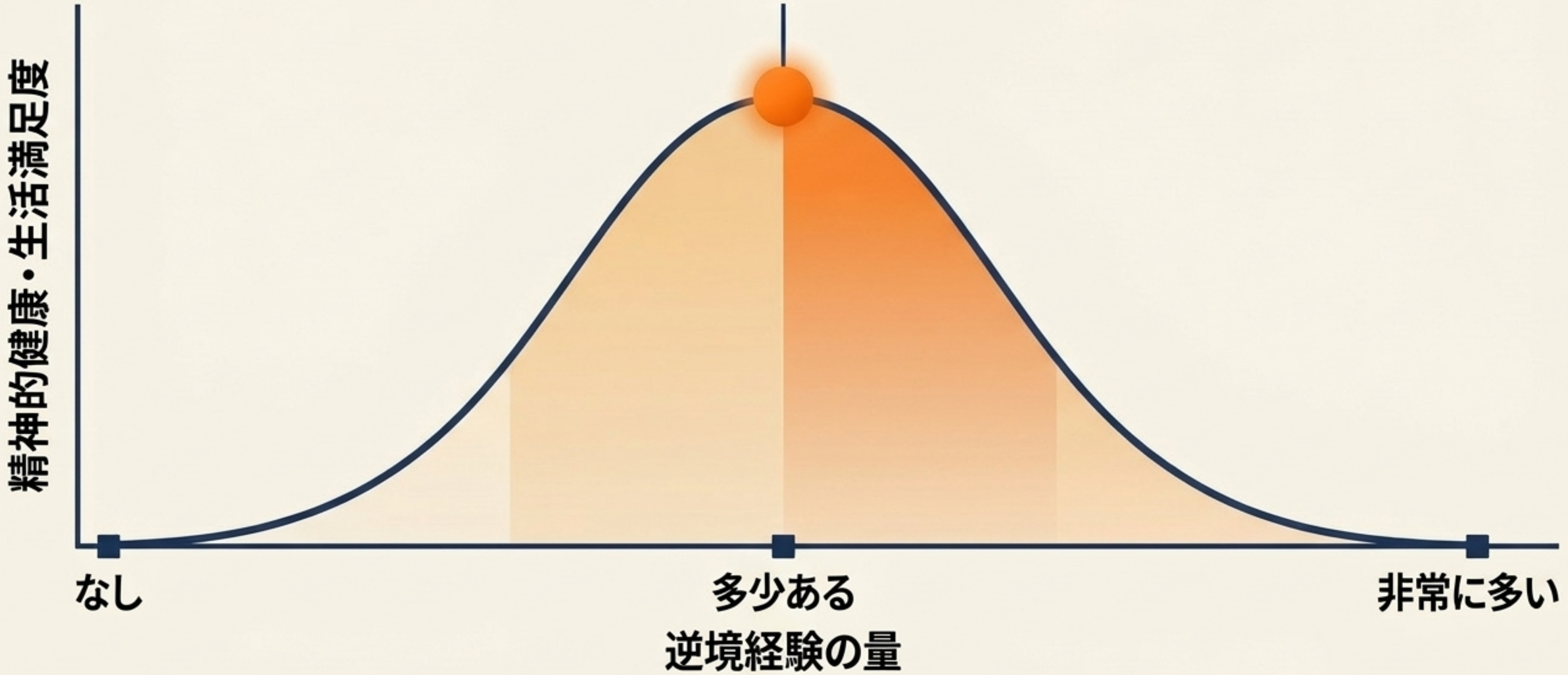


事例	親が失敗から守り続けてきた少女が、高校で困難に直面し、抑うつ状態に。
解釈	失敗や失望に対処する力が育っていなかった。

目の前の失望を取り除くことが、未来の本人を助けるとは限らない。

Gemini Notebook

建設的な厳しさ



Seeryらの追跡研究より：逆境経験が「多少ある」人は、経験がない人や非常に多い人よりも、精神的健康や生活満足度が良好である。

Gemini Notebook

育成の2つのアプローチ

	過保護・全肯定	建設的な厳しさ
失敗への反応	失敗を回避させる	「それは通らない」と明確に伝える
社会の解釈	社会は自分を受け入れてくれる	相手にも都合や断る自由がある
育成のゴール	傷つかないこと	「認められなかった。では次にどうするか」と考える力

Gemini Notebook

その言葉を
飲み込んだのは、
相手を守るため
だったのか？



それとも、
自分が
嫌われてない
ためだったのか？

耳の痛いことを伝えれば、嫌な顔をされるかもしれない。
教える側にも、不快さを引き受ける覚悟が要る。

Gemini Notebook

明確な却下

「今の配球では、
パートナーが困る」

理由の確認

どこが空き、何を狙わ
れるのかを確かめる。



修正と試行

次の一本で配球を変える。

結果の共有

何がよくなったのかを
具体的に伝える。

本人が持ち帰れるのは「注意された」という記憶ではなく、
「何が問題で、どう変えればよいかが分かった」という学び。

Gemini Notebook

Day 1：衝突

Day 2：翌日

「注意された。それでも関係は続いた」

数々は注意して仕事をしてある。
指導者から声をかけ、一緒に練習する。

注意され、気まずさが残る。

その場で気分よく送り出すだけで教育は終わらない。注意された相手と
再び顔を合わせる「翌日」こそが、関係性を修復する力を育む。

Gemini Notebook



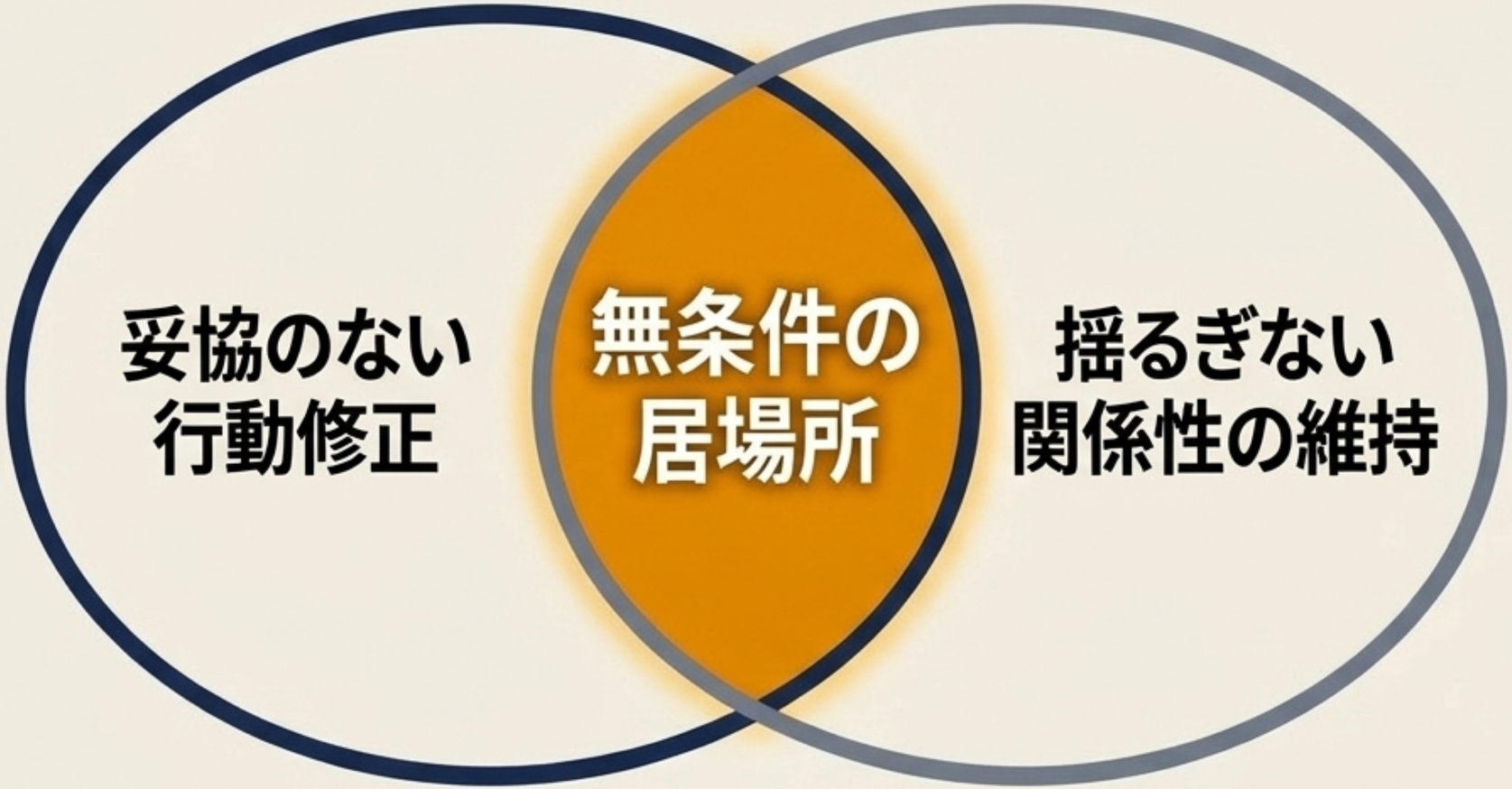
教える側が、自分を
修正する姿も、教えの一部。

- 言葉を取り違えたなら読み直す
- 指摘が不適切だったなら修正する
- 相手の説明から、見落としていたことを学ぶ

**その姿を伴ってこそ、「もう一度考えよう」
という言葉を、相手にも渡せる。**

Gemini Notebook

自分の行動を修正する必要があることと、
仲間として大切にされること。その二つは両立する。



行動を否定されても集団から排除されない経験が、
「失敗しても自分には価値がある」という根源的な安心感（レジリエンス）を生み出す。

Gemini Notebook

指導者のいない場所でも、
こう考えられる人へ。

「認められなかった。
理由を確かめよう。
自分の考えも伝えよう。
変えられるところから、やり直そう。」

**「それでは通らない。
もう一度考えよう。私はここにいる。」**

Gemini Notebook